

船舶事故調査報告書

令和3年8月25日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和3年1月17日 16時30分ごろ
発生場所	広島県呉市黒島西方沖（エビガヒレ） <small>にしごぼんのぼえ</small> 西五番之碕灯標から真方位122°1,600m付近 （概位 北緯34°03.5′ 東経132°27.3′）
事故の概要	プレジャーボート <small>ディーエスジー</small> T S G IIは、北北西進中、浅所に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和3年1月25日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート T S G II、6.2トン
船舶番号、船舶所有者等	270-48499広島、T S Gホールディングス株式会社
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊
負傷者	なし
損傷	プロペラ及びプロペラシャフトに曲損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風速 約5.4m/s、視界 良好 海象：波高 約0.4m、潮汐 下げ潮の中央期、潮高 約168cm （呉）
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、知人3人を乗せ、GPSプロッターを広域表示で作動させ、手動操舵で約13～15ノットの対地速力で黒島西方沖を北北西進中、エビガヒレ（干出岩、以下「本件干出岩」という。）に乗り揚げた。 船長は、黒島沖をこれまでに何度か航行したことがあり、本件干出岩の存在を知っていたが、本件干出岩は本船の進路より右舷方の黒島寄りに存在するものと思っていた。
分析	本船は、北北西進中、船長が、本件干出岩が本船の進路よりも右舷方の黒島寄りに存在すると思い、同岩の正確な位置を確認しないまま航行を続けたことから、本件干出岩に向かう針路となっていることに気付かず、本件干出岩に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が北北西進中、船長が、本件干出岩が本船の進路よりも右舷方の黒島寄りに存在すると思い、同岩の正確な位置を確認しないまま航行を続けたため、本件干出岩に向かう針路となっていることに気付かず、本件干出岩に乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・船長は、GPSプロッターの表示を適切に切り替えて、船位や浅所の位置などを確認しながら航行すること。 ・船長は、事前に航行予定海域の干出岩等の障害物を海図等で把握

	しておくこと。
--	---------